

校長室より

第18号

「天空高き」



平成23年4月7日

がんばれ、日本！がんばれ、東北！

3月11日に東北地方太平洋沖地震が発生し、津波により東北地方沿岸の地域が、甚大な被害にあい、何千人もの尊い命が失われました。福島原発では放射能漏れも起こり、40万人以上の方々が余震におびえながら、不自由な避難生活を強いられています。

日本という国が未曾有の災害に遭遇しています。そんな混乱の中でも、被災、避難された方々は冷静で前向きに行動されています。日本人の「落ち着き」が中国メディアに驚きと感動を与え、更に称賛の声さえ出しています。



外国からの支援申し入れは100カ国を超えました。イギリスのインディペンデント・オン・サンデー紙は13日の第一面全体に日の丸をあしらい、日本語で「がんばれ、日本。がんばれ、東北。」と掲載し、応援してくれました。

世界の温かいまなざしが日本に向けられ、苦難から立ち上がることを応援してくれている今、我々にできることは一体何でしょうか。

被災した方々が切り開こうとする道を尊重し、1日も早い復興を祈ることしかできることはないのでしょうか。

中学3年生の皆さんとは昨年6月に、平和学習で広島平和記念資料館において、葉佐井博巳)さんの被爆者体験の話を一緒にお聞きしました。その時に葉佐井さんは「真実の目を持つこと」と「きちんとした正当な教育を受ける」ことの大切さを皆さんに訴えておられました。今まさに我々に求められていることは、真実の目をもって現実を見て判断し、考え行動することかもしれません。

力強さは使命感を持つところから生まれる。松下 幸之助

東北地方太平洋沖地震に対する海外の声（日本人が世界の人々にどう映ったか）ーらばQ（成果中からニュースをQ）よりー

- ・日本がこんなことになってるなんて…。本当にすばらしい国民で働きもので、世界の経済に貢献してきた。きっと再興には時間がかかるだろうが、僕達にわかるのはきっとさらに強くなって復活するだろうってことだ。命を失った人々が安らかに眠りますように。(英国)
- ・いろんな写真から、生き残った日本人の人々の確固たる精神が伝わってくる。きっと建て直すだろうという気概を感じる。オフィスで屋根から落ちてくるものから守ろうとPCを消してから避難したり、スーパーで物が落ちる前に店員が一生懸命止めようとしていた。
- ・準備しておくことの大切さがみてとれる。そして日本は準備している一番の国だ。建物はずっと強い。きっと救われた命も何千とあるはず。食品を貯蔵したり水や災害に備えることは大事だ。こんなことがあったらロサンゼルスでは政府の責任だとなると思う。こういうときは知恵をしぼらなくちゃいけない。こんなときにはどうするのか、誰を助けるのかなど。日本人を心より尊敬するよ。政府が助けにきてくれないと騒いだりしない。今が一番大変なときだ。(
- ・いろんな写真から、生き残った日本人の人々の確固たる精神が伝わってくる。きっと建て直すだろうという気概を感じる。オフィスで屋根から落ちてくるものから守ろうとPCを消してから避難したり、スーパーで物が落ちる前に店員が一生懸命止めようとしていた。(英国)

1学期がスタートしました。高校生の皆さんは「校長室から」ははじめて目を通されたと思います。去年は毎月1, 2回の割合で中学生の生徒に発行していました。今年からは高校生にも読んでいただきたいと思います。読んでご意見等があれば遠慮なく校長室までお越し下さい。お待ちしております。

高水高等学校・附属中学校 校長 前田 茂
